

お母さんはえらいな

小川未明

青空文庫

いちばん下の勇ちゃんには、よくおなかをいためるので、なるべく果物はたべさせないようにしてありましたから、ほかの兄さんや、姉さんたちが、果物をたべるときには、勇ちゃんの遊びに出て、いないときとか、また夜になって、勇ちゃんが寝てしまつてから、こつそりとたべることにしていました。

「僕、びわがたべたいのだけど。」

「私は、水蜜がたべたいわ。」

兄さんや、姉さんたちは、果物の季節になると、いろいろお

いしそうな、果物が、店頭に並ぶのを見てきて話をしました。

「晩に、勇ちゃんが休んでから、買つてきておたべなさい。」と、

お母^{かあ}さんは、おっしゃったのであります。

ところが、ある日^ひのこと、お土産^{みやげ}に、みごとなパイをもらったのでした。

「まあ、おいしそうですね。」と、お姉^{ねえ}さんが、いいました。

「お母^{かあ}さん、すぐに、切^きっておくれよ。」と、太郎^{たろう}さんが、いいました。

「果^{くだもの}物^{もの}がはいっているから、勇^{いさむ}ちゃんは、たべていけないのですね。」と、二郎^{じろう}さんが、パイをながめながらいいました。

さつきから、やはりだまって、おいしそうな大^{おお}きなパイをながめていた、勇^{いさむ}ちゃんは、これをきくと真^まつ赤^かな顔^{かお}をして、二郎^{じろう}さんにとびつきました。

「そんなこと、あるもんか、僕ぼく、みんなたべるんだい。」と、けんかがはじまったのでした。

「ああ、これは、勇いさむちゃんもたべていいんですよ。」と、お母かあさんが、おっしやったので、やっと勇いさむちゃんの怒いかりは解とけましたが、僕ぼく、たくさんもらうんだ。」と、勇いさむちゃんが、がんばると、

「ずるいや、お母かあさん、公平こうへいに分ぶん配ぱいしてくださいね。」と、二郎じろうさんが、叫さけびました。

「お母かあさんは、いつも、公平こうへいに分ぶん配ぱいするじゃありませんか。」このとき、二郎じろうさんが、メートル尺しゃくを持もつてきたので、みんなは、笑わらい出だしました。

パイをたべた後あとで、お母かあさんは、たなからゼリビンスのはいつ

た袋ふくろをおろして、四人にんの子供こどもたちに、分わけてくださいました。色いろとりどりの曲玉まがたま形がたのお菓子かしは、めいめいの前まえにあつたさらの中なかでかがやいて見みえました。

「僕ぼくのは、これんばかり。」と、太郎たろうさんがいいました。

「姉ねえちゃんねえが、いちばんたくさんだ。」と、二郎じろうさんがいいました。

「いいえ、みんなおんなじですよ。かんじようをしてごらんさい。」と、お母かあさんがいわれました。四人にんはかんじようすると、いちばん小ちいさい勇いさむちやんのが、一つ多おおかつただけで、三人にんのゼリピンズの数かずはまったくおんなじだったのです。

「それごらんさい。お母かあさんは、かんじようしなくても公こう平へい」

でしよう。」

「お母^{かあ}さんは、えらいな。」と、子供^{こども}たちは感^{かん}心^{しん}して目^めをみはりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「お母《かあ》さんはえらいな」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さんはえらいな

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>